

サーキット・マット運動

教科・場面

体育・目標物として

授業・実践のねらい

サーキットやマット運動などの活動において、見通しを持てるようにする。目標物にすることで「そこまでがんばろう」の意欲を引き出す。

対象の児童・生徒

4年男女：同じ活動を繰り返して取り組めば、流れや終わりがわかる。興味のあるものへは、自分で向かっていくことができる。
 6年男子：20M程度の独歩が可能。目標物が見えるとそこまで活動することができる。
 6年女子：活動以外のことに気を取られて気持ちを崩しやすいが、見通しがあれば最後までやりきることができる。

教材・教具



タッチライトは100均

工夫したところ

鼻にタッチライトを使用。タッチすると光ることで、押したい気持ちになるようにした。

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ・サーキットやマット運動など「ゴール」として使用。
- ・活動の途中で気持ちなどが切れてしまう児童には、目の前で示し、ゴールを意識できるようにする。



授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・「アンパンマンまでがんばります」と言って気持ちを立て直す児童や、アンパンマンを見える位置に置くことで、手を伸ばしてすすむ児童など、ゴールを意識して取り組むことができた。
- ・タッチライトを押す感覚があるので「これでおわり」を実感しやすいように感じた。